



STOP! 介護崩壊 介護ウェブ2010 推進ニュース

— 介護ウェブの “Big Wave” をおこそう! —

方針「今後の介護ウェブの取り組みについて」を具体化し介護改善要求の声を国会に届けよう!

**「第1回介護事業所管理運営セミナー」(2010年3月6~7日)開催!
第1期生の卒業生43名が誕生! 今後の活躍に期待(九州・沖縄地協)**

九州・沖縄地協主催「第1回介護事業所管理運営セミナー」が福岡市内で、関係者も含め48名の参加で開催されました。2日間にわたり4つの講義と、SGD(スモールグループディスカッション)が行われ、第1期生の卒業生43名が誕生しました。各法人での今後の活躍が期待されます。

本セミナーは、介護保険制度が10年目をむかえましたが、介護事業の管理者養成や、法人・県連を超えた管理者の交流がなかなか進んでいない状況がありました。そのため、九州・沖縄地協では、全日本民医連主催「介護・福祉分野の管理者養成を推進する研修交流会(2009年11月)」を受けて、今後の介護事業活動や介護ウェブ等を含めた運動課題を推進する介護事業の管理者養成と、管理者の法人・県連を超えた横のつながりを強化することを主な目的に企画・開催しました。



4つの講義で管理者に求められるポイントを学び、SGDで討議が行われる

第1講義で、山田智副会長(全日本民医連)は、「2009年度全日本民医連介護・福祉責任者会議問題提起(2009年11月)」に基づいて、改悪され続けてきた介護保険10年の歴史や介護ウェブの取り組みと成果、全国で展開されている「24時間・365日最後まで安心」できる介護施設の展開と今後等についての報告と、親仁会の介護の質向上や経営改善の取組について紹介がされました。



第2講義は、福岡県介護福祉士会の大智明副会長が、介護の質向上と介護職員の育成のポイントを紹介。大智氏は、「介護の質向上には職場の理想(理念)が必要で、理想にむけて現時点の到達点を職員で共有することが必要」と強調。その上で、個々の職員がそれぞれの役割を果たすことができる育成と併せた人財確保も大きな柱になるという考えを述べました。また、本人と共有した職員像を実現する育成計画を、PDCAサイクルで実践することと、「リーダーは職場のキーパーソンであることを肝に銘じ、あなた自身が変わることが大切である」と、職員養成の必要な視点を示しました。

第3講義は、塩塚啓史全日本民医連事務局次長(全日本民医連経営部長)が、民医連経営の概論や統一会計基準、貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書についてそれぞれの性格と関係、見方のポイント等について解説しました。塩塚氏は講義を契機に、「今後は法人や事業所の決算書をしっかりと見て、解らないことや疑問に思うことを担当者に質問しながら力量の向上を図ることが大切である」と、取り組むべき姿勢を強調しました。





第4講義は、山村弘成氏（大阪民医連事務局次長）が、介護情勢と民医連職責者にもとめられるポイントを解説。山村氏は、大阪民医連として過去最大の163名を組織した宣伝行動など、自発的で元気な大阪民医連の介護ウェブの取組の紹介し、「応益負担」「逆転の所得再配分機能」「保険給付範囲の限定化」「低賃金・長時間労働」等、介護保険制度を取り巻く情勢を解説しました。また、民医連の職責者に求められるものとして、「理念を貫き、全国の教訓を踏まえた管理運営が必要。管理者としてあきらめず、変革の立場で、全国の仲間と共に考え、共に悩み、共に行動しよう！」と提起しました。

SGDで活発な討論！「今後も介護ウェブの先頭に立って取り組んでいきたい」

SGDは5班に分かれ、自身の民医連観や管理者の役割や心構え、職員育成や業務改善等についてそれぞれの事業所の実状等について活発な討論が行われました。参加者から、「職場の理念を朝礼などで読み合わせ、実践しながら理解を深めていきたい」「すきまを埋めるセーフティーネットみたいなものが民医連の介護。無差別平等の介護を目指し困難事例に寄り添っていきたい」「制度改善に民医連がイニシアチブを取って取り組んでいることに確信が持てた。今後も介護ウェブの先頭に立って取り組んでいきたい」「参加者から様々な取り組みや意見を聞いて非常に参考になった。このように気軽に交流できることは民医連の強みであることを改めて実感できた」「管理者になるための研修を受けたことがなく、職場運営やスタッフ育成に不安をかかえたまま任務を遂行している。この研修を契機に成長していきたい」「登録ヘルパーをはじめ非常勤職員が多い中で、方針の徹底や育成が大きな悩み」等の多くの感想が寄せられました。



九州・沖縄地協の取り組みが全国の先駆けとなることを期待

山田智副会長は閉会挨拶で、「各SGDの報告を聞いていると、このセミナーの開催目的であった、介護事業所の管理者養成と交流を十分に達成でき、有意義なセミナーになったのではないかと思います。職場の運営や、スタッフ育成、介護ウェブの運動に活かしていただくようお願いしたい。また、このセミナーを1回だけで終わらせるのではなく2回目、3回目を開催し、介護事業所の管理者の育成と交流を深めていきたいと考えている。九州のこの取り組みが全国の先駆けとなるのではないかと期待している」と、セミナーが継続的な開催となるよう、今後の期待を寄せました。

（2010年3月30日 福岡県民医連 田口義和次長より）

新介護署名行動に6事業所25人が参加し310筆集める+カンパもあり！（熊本）



2月22日、下通りで介護ウェブ行動を行いました。職員の熱心な説明に、若者や年配の方も「介護は大変！娘が介護福祉士をしているんですよ」「親を家でみたけど大変でした」と、署名を快諾。カンパも1,000円集まりました。参加者から、「通行中の老人ご夫婦は、ご主人が奥さんの車イスを押しての介護状態。私たちの訴えや署名行動を見て、車イスで近づいてこられ、奥さんが2人の名前を書かれました。最後に『頑張ってください』と激励の言葉を受け感動しました」等の感想が出されました。

（くまもと介護ウェブニュース 2010年2月23日号 No.25より）

お問い合わせは、「介護ウェブ推進本部」事務局：山平・名波まで

TEL 03-5842-6451 / FAX 03-5842-6460 / E-mail min-kaigo@min-iren.gr.jp